

ボランティア・市民活動情報誌

OITA BOHONOME

URL ☎ <http://www.oitavoc.jp> E-mail ✉ oitavoc@oitavoc.jp

～ボランティアの種を蒔いて育てよう～

発行所

社会福祉法人 大分県社会福祉協議会
大分県ボランティア・市民活動センター

〒870-0907
大分市大津町2丁目1番41号

お問合せ先

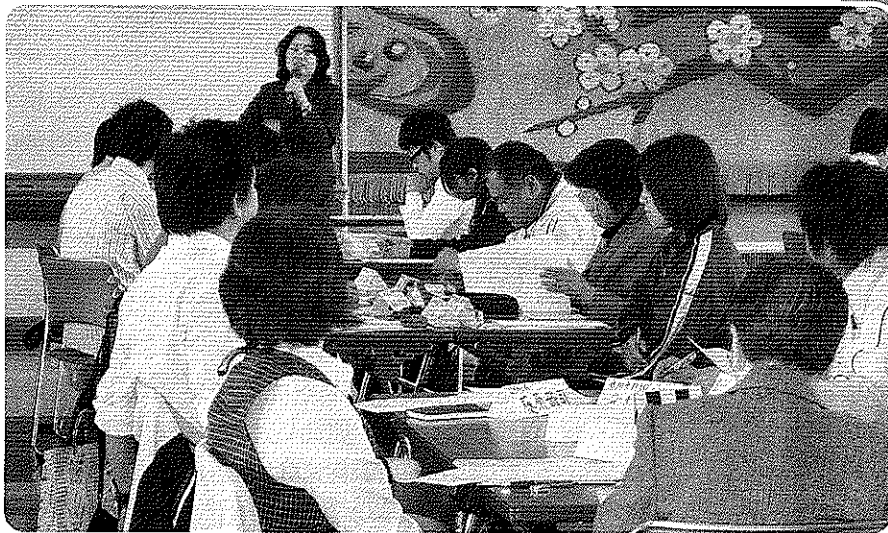
TEL (097) 558-3373
FAX (097) 558-1296

2008 JULY

No. 11



「大分県ボランティアコーディネーター研修会」 が開催されました!!



5月14日(水) 13:00～

講師

あしやNPOセンター事務局長
海士 美雪 氏

先生からのアドバイス

- 受入側と活動者の間でのアンマッチを防ぐため、ボランティア活動に入る前に「お試し期間」設けよう。
- 受入側も活動者も、時代の状況に応じた活動プログラムを考える必要がある。
- 「有償ボランティア」「ボラバイト」については、活動者を「安上がりのマンパワー」にさせないために取り扱いには充分気を付けよう。

コーディネーターやボランティア担当
となって間もない方を中心に、「ボランティアとは？」
「ボランティアコーディネーターとは？」と、ボラ
ンティアというものを原点から考えてゆく内容で、
開催されました。

また参加者は職種別のグループに分かれ、熱心
な意見交換も行っていました。

Event Schdule

- 7月10日(木)「大分県ボランティア・市民活動講座」
- 7月22日(火)～8月31日(日)「夏のボランティア体験月間」
- 8月22日(金)「大分県ボランティア・市民活動推進大会」

これからの行事

このほかにも

「福祉ボランティアリーダー養成講座」(5日間)
「ボランティア活動促進のための講師派遣(出前講座)」
「ボランティア連絡協議会先進地視察研修」

「企業・団体等社会貢献・ボランティア活動研修会」
「福祉教育研究発表会」
「住民参加型在宅福祉サービス団体研修会」

などを予定しています。お楽しみに!!



どのような判断が必要か？

6月14日に岩手・宮城内陸地震が発生しました。

今回も中山間地域での発生。避難所には高齢者の方が多いと聞いています。宮城県は早々に「外部ボランティアの受け入れはしません」と表明しましたが、ボランティアが必要なのではなく、その活動の必要性が理解出来ない方の判断だと聞いています。確かに、

地域力を活かしたカタチで地元の方々が災害に向きあって下さるのは、地域の活性化や復興への勢いになることは間違いない

のですが、全く受け入れないということは、いつまでも活動が続く…そのうちにボランティア活動ではなくて義務になってしまう。中には被災した方もいらっしやることと思います。

今回の地震も、支援が長期にわたると考えられますが、地域の元気になるどころか負担になってしまうのではないかと心配しています。また、現地支援者の発信を見ると早急になんとかしないと大変なことになるのでは…と心が痛みます。

大量のボランティアは必要ないかもしれませんが、息の長い支援活動は必要です。

このような矛盾は、昨年発生しました能登半島地震や新潟県中越沖地震のときにもありました。

被災された方々が、自然災害ではなく人災によって困難な生活を強いられるような状況は回避しなければなりません。

その後、活動の必要性を認識し避難所で「被災者助け合いセンター」を設置。県内ボランティアの受付を開始しました。(6月23日)

大分県で発生した場合に、このような最悪な事態は絶対おこしてはならないのです。日頃から、被災地で起こりうる問題や課題を理解し、それを回避する手だてをみなさんで考え、連携し協働して災害に立ち向かうネットワークや仕組み作りを行わなければならないと思います。

■ここで、被災地で支援活動をされている方の情報を抜粋します。

● 本日(2008.6.17)の動き

・栗駒文字地区自主避難所でのヒヤリングへ同行・足湯(KOBE足湯隊)・環境整備など

● 栗原市社会福祉協議会の対応

・社協スタッフによる花山地区の高齢者世帯個別訪問。(70歳以上対象・32名)

・ボランティア依頼表の作成、配布(一番大きな避難所での配布は行政の許可が下りず。)

・栗駒文字地区自主避難所でのヒヤリング調査

● 被災者の声(栗駒文字地区自主避難所/避難者10名)

・93歳になる義母と共に避難。妻は転倒したタンスの下敷きになり、怪我をして入院中。田んぼや畑の世話があるので、日中は家に帰り、夜に寝るために避難所に来るとい生活。こここのところ震災のショックからか、夜はほとんど寝られていない。3日間風呂にも入っていない。近くの温泉に入っている人もいるが、入浴料が500円かかり自腹をきっている状態。当然無料にすべきだ。市は対応が後手にまわっていると感じる。最近この施設の管理者が、文字地区から自分のいるカドガサキ部落に移行。隣接するカキノキ部落の住民などは、遠慮して避難所に来ない。ここにいるのは、自分の集落の人たちだけなので、在宅で困っていないか気になる。食事はこれまで2回弁当が出たが、それ以外はおにぎりやインスタント味噌汁。炊き出しでもやってくれたらいいのに。そろそろ変わったものも食べたいと思うが。みんな高齢者ばかりなので、調理室があり、ガスが使えても、料理はでき

ないから。昭和一桁前に生まれた人たちは、食べられるだけでありがたいと思うし、何でもおいしいと言う。(77歳・男性)
※入浴については、18日以降、自衛隊が入浴サービスを行う予定。

・孫の嫁が体調の悪化などを心配し、家においでと言ってくれている。孫の家は自宅から1時間程かかる。一番安心できる場所と考え、孫の家に行きたいという思いがある。しかし、婿より「一人暮らしの__さんがさびしがるから、もうしばらくここにいれないか」と言われた。(お嬢さんとしては、孫の家に行っても、みんな働きに出て一人になるので、余計にさびしく、気を使うのではないかと懸念あり)婿は一家の主だし、地域の付き合いを大切にしようと考えれば、やはりもう少し避難所にいた方がよいと考え、断った。お通じはあり。以前動脈瘤の手術を受け、その場所が最近またうずいている。でも頑張れる。(93歳・女性)

・少し血圧が高くなっている。心臓が悪く、医者からは水分制限をされている。1日必ず、血圧・水分量・体重・脈拍を測り、ノートにつけるように先生に言われている。夜はゆっくり眠れない。普段着のまま寝るので、やっぱりゆっくりとできない。(80代・女性)

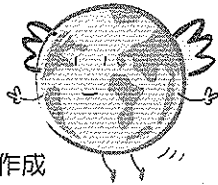
・足湯は本当によかった。いつも足がだるいと感じていたが、びっくりするほど軽くなった。孫みたいな子達と話をしてもらって、とっても楽しく過ごさせてもらった。またやってほしい。

● 今後心配されること

・トイレと居室(清掃・空気の入替え・ごみの分別など)の衛生管理。

・互いの仲がよいか故の気兼ね。ストレス(一人になりたい…)

- ・健康状態の悪化(不眠・食事の問題)。
- ・避難している世話役的な方の負担。
- ・個別の実態把握、(ケースシート?)などの作成
- ・気分転換



● 岩手県における障がい者の状況

(NPO愛知ねっとスタッフNさんからの情報提供)

・Nさんのお子さんは知的障がい者。2003年の宮城県北部連続地震で、揺れに驚きパニックになったことを教訓として、日常から防災訓練をするようになった。今回の地震では、いわれなくても部屋の扉をあけ、避難経路を確保していた。日ごろの成果が出た。事前の訓練や意識付けなど、日常からの取り組みがやはりとても重要だと思う。

● 現地に入っている支援者の話

・自主避難所・小規模ということで、保健師は定期的に来ていたようだが、常駐はしていないので行政対応は他と比べて手薄。

・ほとんどが、75歳以上の方で、今は気丈に振舞っているが今後数日の間で体調不良を訴える方が出てくる懸念あり。この時期の、「自分は大丈夫、もっとがんばれる。他人が入ってくると余計に気兼ねするから、自分たちのペースで助け合いながらやっつけていける。」という言葉。それをこちらが、間に受け、消極的な対応をすれば、手遅れになる可能性が出てくる。90歳のお年寄りにとってみれば、家と違う場所にいることだけでも相当な負担だ。また、被災者の声からもすでに体の不調を訴える方、予兆のみえる方もいる。自分たちの目からみえることだけで判断しようとしたり、相手の意向を聞きながら物事を進めることにこだわりすぎると、介入のタイミングを逃し、本当に手遅れになる。だから、その場で決断して、その場で何気なく解決できるような雰囲気づくりや瞬発力が求められる。支援体制について、まずは全体の方針を決めることも重要かもしれないが、例えば、コップがなく発砲スチロールのおわんで牛乳を飲んでいる、その状況にいち早く気づき、すぐに解決しようと動く感性を持つことの方が大事だと私は感じる。そこに、信頼と安心が生まれる。被災者支援は、このようなことの積み重ねでしかないのではないかな。しかしまだ状態の変化がはっきり見えていない中で、この重要性を理解してもらうことの難しさを今、痛感している。

被災地の状況で支援内容は変わってくる。これまで
 そうだから…とか、そう言うものだとか決めつけるのは
 おかしい。現地で実際に被災者の声を聴き、様子を観、
 感じている人の発信は心して受け止めないといけない。
 私たちは何をすべきで…何ができるのか…

(文責: 村野)

書籍・DVD・ビデオの紹介

Book



いとしの能登
よみがえれ!

—ボランティアの能登ノート—

▲2007年3月25日能登半島地震発生。被災地能登の住民のあたたかさとか強さに触れる一冊。

震災がつなぐ
全国ネットワーク
定価1,500円
売り上げの一部は、
能登半島地震復興支援に
使わせていただきます。

Book



退職世代が
地域を変える

定年退職者の地域活動の
開発・支援のあり方に関する
調査研究事業報告書

全国社会福祉協議会
大分県ボランティア
市民活動センターで無料貸出し!

▲退職世代の地域活動/ボランティア・市民活動への参加推進にむけて、現状と課題を把握、中間支援組織の役割などについても分析し、退職世代にとって魅力的なプログラム開発を行うための事例報告集。

DVD



「ペイ・フォワード」

ワーナー・ホーム・ビデオ
2,625円(税込み)

▲「もし君たちが世界を変えたいと思ったら、何をすればいい?」他人から受けた厚意をその人に返すのではなく、まわりにいる別の人へと贈っていくことを思いついた11歳の少年トレバー。やがてこのアイデアが、心に傷を負った人たちの心を癒してゆく…



参加者募集

夏のボランティア体験月間

期間 7月22日から8月31日のうち、3日間

対象 県内の学生・生徒及び社会人・中高年層

詳しいお問い合わせ・お申し込み先

- 地元の社会福祉協議会または 大分県ボランティア・市民活動センター



イベント情報

「第17回全国ボランティアフェスティバルにいがた」参加申込受付中!

開催日: 9月20日(土)・21日(日)
メイン会場: 朱鷺メッセ(新潟県)
申込期限: 7月31日(木)

お問合せ先

第17回全国ボランティアフェスティバルにいがた実行委員会事務局
TEL(025)281-5805
URL <http://www.vf-niigata.com/>



助成金情報

Panasonic NPOサポートファンド



「子ども」と「環境」の分野で社会的課題解決に取り組むNPOへの総合的支援プログラム

対象団体: 環境問題もしくは子どもの健やかな育ちを応援するNPO

助成額: 上限150万円/団体(総額3,000万円)

応募締切り: 7月31日(木)(当日消印有効)

助成金情報

「2008年度 改修事業助成」(日本財団) 「もったいない」をカタチに!

眠っている地域資産の再活用に向けた改修事業への助成。

助成金限度額: 条件に応じて100万円~3,000万円。
対象事業: 「既存建物の改修による新規拠点の整備など」
募集期間: 2008年8月1日~8月29日(当日消印有効)

お問合せ先

日本財団 電話03-6229-5111(総合案内)
<http://www.nippon-foundation.or.jp>



収集ボランティアさん、ありがとう! (敬称略)

● 中古テニスボール

楊志館高等学校
大分県テニス協会
大原 聖
浦生 朋子

白杵西中学校
上野ヶ丘中学校
別府厚生館

* 椅子や机の足下に取り付けると防音効果があり、聴覚に障害をもつ児童・生徒さんのいる学校などで特に喜ばれています。

● 古切手・書き損じハガキ・使用済みテレホンカード

手話サークル はぐるま(夜の部)
荏隈校区ボランティア
「秋桜の会」
その他ボランティア・市民活動ルーム
前の設置ボックスへ入れていただいた方

大分県盲人協会

* 換金をして、協会活動の支援に役立っています。



みなさんからの
お便りをお待ちしています。

ご意見・ご感想・疑問・質問・情報の提供など何でも結構です。どしどしお寄せください!

宛先はこちら...大分県大分市大津町2丁目1番41号
「大分県ボランティア・市民活動センター
「ぼらのたね」係

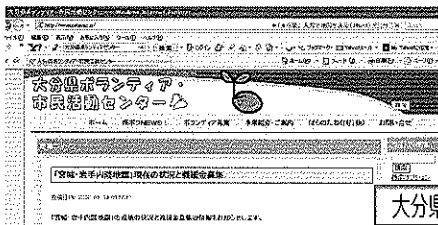
メールは...oitavoc@oitavoc.jp

「ぼらのたね」のお届け先

- 大分県庁 ● コンパルホール
- 大分県社会福祉介護研修センター
- 各市町村の社会福祉協議会
- 各市町村役場 ● 県立図書館 ● 国際交流プラザ
- ライフパル ● 大分県生涯学習センター など



ホームページあります!! <http://www.oitavoc.jp>



ニュース、ボランティア活動情報
助成金情報、ボランティア保険
など掲載!! ぜひチェックして
みてくださいね。

大分県ボランティア市民活動センター

検索

■ ボランティア・市民活動についてのご相談・お問合せは...

社会福祉法人 大分県社会福祉協議会 **大分県ボランティア・市民活動センター**

■ 開所時間

月曜日~金曜日 8:30~17:15

〒870-0907 大分市大津町2丁目1番41号

TEL(097)558-3373・FAX(097)558-1296

■ ボランティア・市民活動ルーム開室時間

月曜日~土曜日 9:00~20:30

日曜日、水曜日 9:00~17:00

平日の17:00以降及び土、日、祭日は事前に予約

編集後記

先日、国体マスケット「めじろん」役をやらせてもらえ
るチャンスを得たきました!

書いて! 視界が狭いつ! 確かに動きづら
いつ! イベント会場の「めじろん」の大変さ
がちよっぴりわかった気がします。見てくれ
る方に楽しんでもらえたらと思ったのです
が、「めじろんっ♡」と言って近づいてきてく
れるみなさんから、逆に愛情をいっぱいもら
えて嬉しかったです。「めじろんダンス」を踊っ
てくれた「こぼと保育園」のおともだち、先生、
とっても素敵でした! ありがとうございます

